

運営小委員会のメンバーに加わるにあたり

東京大学大学院工学系研究科原子力専攻 山下真一

昨年4月より、水化学部会の運営小委員会に加わることとなりました山下真一と申します。よろしくお願いいたします。2008年に、がん治療用高エネルギー重イオンビームによる水の放射線分解の研究で、学位を取得しました。その後、日本原子力研究開発機構の先端基礎研究センターで3年、量子ビーム研究開発部門（現、量子科学技術研究開発機構量子ビーム科学部門）で1年半、博士研究員として過ごしました。水のラジオリシスの研究、特にマイクロや飛跡構造と生成物収量の相関や高分子ゲル線量計の開発などに携わってきました。2012年10月より大学に助教（着任直後の3か月間は特任助教）として移り、東海村の敷地にある電子線加速器施設 LINAC の管理や共同利用研究の窓口なども担当するようになりました。熔融塩のラジオリシスの初期過程や、水のラジオリシスにおけるハロゲンイオンの影響など研究してきました。最近ではモデル分子を用いた放射線誘起 DNA 損傷の初期過程の研究や、金属酸化物微粒子がある状況での水のラジオリシスの研究や、LINAC の電子線パルスを利用した時間分解測定体系の拡張などにも取り組んでいます。原子力や放射線には分野横断的なコミュニティが必要不可欠だと日々実感しております。水化学部会の運営だけでなく、研究者間の交流促進も意欲を持って取り組めればと期待しております。水化学部会や運営小委員会では経験が浅くご迷惑おかけすることもあるかと思いますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

2020年3月吉日